

海軍公報

第四七五六號

海軍大臣官房

昭和十九年八月一日(火)

○令

官務備第七三號ノ六

昭和十七年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始期日ハ追テ之ヲ定ム
昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

表中第十六海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第十七海軍軍用郵便所

父島方面特別根據地隊

横須賀鎮守府

横須賀鎮守府

監督官 兼務
所長 專任
所員 專務

十六人 一人
一人 一人
一人 一人

第二十四海軍軍用郵便所ノ項職員ノ際「所員」專任 二人 判任「所員」專任 四人 判任「所員」

第二十七海軍軍用郵便所ノ項職員ノ際「所員」專任 五人 判任「所員」專任 五人 判任「所員」

「所員」專任 十一人 判任「所員」二改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

○通牒

官房備機密第三二八號ノ六

昭和十九年七月三十一日

海軍省副官

秘海軍公報 第四七五六號 昭和十九年八月一日

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中ニ

マ	リ	ア	ナ	航	空	隊	ウ	四	五	貳
東	カ	ロ	リ	航	空	隊	ウ	四	五	參
西	カ	ロ	リ	航	空	隊	ウ	四	五	肆
第	二	特	別	基	地	隊	ウ	四	五	伍

一〇三五

ノ加フ

同 (其ノ二) 中ニ

菲島航空隊	テ六壹
第三十一潜水艦基地隊	テ六貳

ノ加フ

第三十三海軍軍用郵便所

第三艦隊

横須賀鎮守府

第三艦隊

同

(其ノ四) 中ニ

第三防空幹部隊	セ壹七壹
濠北航空隊	セ壹七貳

ノ加フ

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽中第十四海軍軍用郵便所ノ項ヲ削リ第三十二海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ

監督官	兼務	一人
所長	専任	一人 奏任
所員	専任	二人 判任

軍需糧第一〇一號ノ二

昭和十九年七月三十一日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

本年軍需糧第一〇一號中改正ノ件通牒

首題ノ件左記ノ通改正セラレ候

記

「生徒」ノ上ニ「職員及」ヲ加フ

(参照) 軍需糧第一〇一號(昭和一九、五、二六海軍公報(部内限))

○雜 款

○書類再送ノ件

當隊舞鶴在泊中自六月十七日至六月二十五日間ニ於テ受領セル書類(各部ニテ該期間ニ到達セリト認ムルモノ)一括事故ニ依リ亡失セルニ付再送相成度 (第三十一魚雷艇隊)

○事務開始

第三十三號海防艦機裝具事務所ヲ七月二十四日兵庫縣相生市播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
電話番號 播磨造船所構内郵便局 二三八番

○事務所撤去

第二十七號海防艦機裝具事務所ハ七月二十日之ヲ撤去セリ

○本日軍機秘海軍公報第一號(甲配付)發行セリ

海軍公報 第四七五七號

昭和十九年八月二日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第二四三號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國税關監視艇「アレンド」ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第百八號哨戒艇

達第二四四號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國驅潛艇(假稱第八十三號船)ニ隻ヲ帝國特務艦籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第百二海軍工作部保管

第百十八號驅潛特務艦

官房機密第一二二二號

昭和十二年官房機密第八號外一件中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

昭和十二年官房機密第八號第三項及昭和十五年官房機密第四三

四號第二項ノ次ニ夫左ノ一項ヲ加フ

化學兵器ヲ當ノ支給ヲ受クル者ニハ第一項ノ増給ハ之ヲ支給セズ

(參照) 昭和十二年官房機密第八號 海軍機密會計法規類集 八三頁
昭和五年官房機密第四四號 同 八二頁

官房機密第一二二二號

損害補償及慰籍内規中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第二條中「千圓」ヲ「五千圓」ニ改ム

(參照) 海軍機密會計法規類集一〇九頁

官房機密第二七一號

當分ノ間海軍病院ニ在院スル軍人軍屬ニシテ機能恢復促進ノ爲作業ヲ課スル要アルモノニ對シテハ左ノ各號ニ依リ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得

昭和十九年八月一日

海軍大臣

一 貸與スベキ被服物品ノ品種及數量

作業服 一人二付 一組
 略 靴 同 一組
 靴 下 同 一組

各病院ニ於ケル準備標準

海軍病院名	準備人員	海軍病院名	準備人員
横須賀	二〇〇	野比	六〇〇
吳	二〇〇	崎野	六〇〇
佐世保	二〇〇	山中	二〇〇
録島	二〇〇	大溝	二〇〇
設ケ浦	二〇〇	高雄	二〇〇
別府	六〇〇	饒海	五〇〇
岩國	六〇〇	戸塚	六〇〇
大村	六〇〇	賀茂	六〇〇
霧島	六〇〇	海軍軍醫學校	六〇〇
湊	六〇〇	計	七六五〇

官房空機密第一四號ノ二六二

昭和十九年七月二十一日

海軍 大、臣

横須賀、吳、佐世保、舞鶴鎮守府)司令長官殿
 大湊、鎮海、高雄、警備府)司令長官殿
 基準兵器簿ノ件通達
 艦船部隊特設艦船部隊基準兵器簿通信長主管(航空)ノ部別
 ノ通制定ス
 別冊ハ海軍航空本部長ヲシテ海軍航空廠長ニ送付ノ上所要ノ
 ニ之ヲ配付セシム

官房經第七三一號

昭和十七年官房第五二七號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍 大、臣

第一項中「内戦部隊」ヲ「鎮守府、警備府部隊」ニ、「又ハ配
 ノ特務艇ニ配置セラレタルモノ」ヲ「若ハ配屬ノ特務艇ニ配
 セラレタルモノ又ハ臨時乗艇ヲ命ゼラレタルモノ」ニ改ム
 第二項ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十九年七月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照) 海軍機密會計法規類集二三〇ノ三二頁

○ 通 達

官房機密第一三四號ノ一一

昭和十九年八月一日

海軍省 副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第三三號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

經給第一三五號

昭和十九年七月三十一日

海軍省 經理局長

各支出官、資金前渡官吏殿

給與通牒携行勳行方ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ昭和十八年經給第二六號ノ以テ通牒致置候
處未ダ之方勳行不充分ノ爲給與處理上支障尠カラザル實情ニ付
嚴ニ勳行相成度

(多照) 昭和十八年經給第二六號海軍會計法規類集三卷六七四頁

航本機密第九四〇二號

昭和十九年七月三十一日

海軍省 軍需局長
海軍 航空本部長

關係各廳長殿

航空揮發油丙(「アルコール」混合航揮)使用
ニ關スル注意ノ件申進

秘海軍公報 第四七五七號

昭和十九年八月二日

本年七月軍需二機密第六四七號ニヨリ一部練習機等ニ首題燃料
ヲ使用スルコトニ定メラレ候處本燃料實用ニ際シテハ差當リ左
記ニ留意相成度

記

一 氣化器調整ニ關スル件

概ネ左ニ依ルコト

發動器	在來ノ調整	航空揮發油丙使 用ノ際ノ調整
天 風 一〇型	主噴口流量 毎分一七五〇g	調整變更ヲ要セス
天 風 二〇型	主噴口流量毎分 一七五〇乃至二四〇〇g 主噴口ノ調整 「エコー」目盛	毎分一七五〇乃至二四〇〇g 噴口ニ交換スル際アリ 調整變更ノ要ナレ
天 風 二〇型改一、二、三	主噴口目盛	調整變更ノ要ナレ

二 混合燃料ニ對シ水分ノ混入ニ關スル件

(イ) 航空揮發油丙ハ二乃至三%程度ノ水分混入ニヨリ二層ニ
分離スル故「ドラム」ニ燃料「タンク」等ノ密栓ヲ嚴重ニ

シ貯藏ニ當リ水分ノ混入吸濕ノ極力防止スルコト

(ロ) 使用時嚴重ニ分離又ハ潤濁セルヤフ調査シ分離又ハ潤濁
ノ狀態ニアルモノハ使用セザルコト

分離狀態ノ檢定法ハ内徑五耗程度ノ「ガラス」又ハ金屬管
ヲ「ドラム」ニ挿入シ上面ヲ密閉シタル後靜力ニ引

上ゲ之ヲ「ガラス」容器ニ採取シテ狀況ノ目視スルノ可ト
認ム

三 濾過スル場合ハ目ノ細キ特製絹布等ヲ使用スルコト
備儀ニ關スル件

防敵法ニ關シ、八月下旬迄中ナルモ取敢ハズ燃料系統特ニ管
接上、燃料可採管、氣化器内高、濃縮ノ階檢ノ嚴重ニ實施ス
ル、

○雜款

○派遣隊設置

攻撃第一〇三飛行隊ハ千歳航空基地ニ派遣七月二十六日同基地
ニ於テ事務ヲ開始セリ

道ノ人事關係ハ同隊ニテ處理、給與ハ本隊ニ於テ處理ス同隊
宛轉勤者ハ直接赴任セシメラレ度

(第五五三海軍航空隊)

○事務開始

第十四防疫班ハ七月十五日吳海軍病院内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第三百二十五設營隊ハ七月二十日佐世保海軍施設部内ニ於テ事
務ヲ開始セリ

聯隊艦機裝具事務所ヲ七月二十二日横須賀海軍工廠内ニ設置
シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第四十一號掃海艦機裝具事務所ハ七月十七日之ヲ撤去セリ

○残務整理

第三〇一海軍航空隊ハ七月十日解隊残務整理ハ當分ノ開洲ノ崎

海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ

第三〇一海軍航空隊ハ七月十日解隊残務整理ハ鹿児島市鹿児島
航空基地ニ於テ之ヲ行フ

宮崎海軍航空隊ハ八月一日解隊残務整理ハ松島海軍航空隊内ニ
於テ之ヲ行フ

○轉勤者旅行先

當隊八月一日開隊輸勤者ハ左ニ依リ旅行セシメラレ度

青森方面ヨリノ旅行者ハ小生田、石巻經由、東京方面ヨリノ旅
行者ハ仙臺經由、宮城電鐵矢木驛下車約一・五軒(徒歩約二十
分) 徒歩ノ外利用便ナシ

(松島海軍航空隊)

○旅行順路

一 所在地 靜岡縣志太郡靜濱村

二 順路

東海道線藤枝驛下車、乗換一藤相鐵道上新田驛下
車徒歩約十五分(當基地ヘノ旅行者ニシテ燒津驛
セラルル向多數ニ付特ニ注意アリタシ)

(燒津航空基地(假稱)設
立準備委員事務所)

海軍公報

第四七五八號

昭和十九年八月三日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九〇五號

驅逐艦 樺

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

第四十三號海防艦

右本籍ノ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

第四十三號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年七月三十日

海軍大臣

内令第九〇六號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

哨戒艇ノ部中「第七七號」ノ下ニ、「第七八號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第九〇七號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

驅逐特務艇ノ部中「第七十七號」ノ下ニ、「第七十八號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令兵第五八號

兵器造修規則中左ノ通改正ス

昭和十九年七月二十九日

海軍大臣

第五十八條 鎮守府司令長官ハ海軍艦政本部長及海軍航空本部長ト協議ノ上兵器公試ノ實施方案ヲ定ムベシ但シ同一鎮守府

管下ノ建造所ニ於テ造修スル同型艦ノ第二艦以降ノ兵器公試

實施方案ハ之ヲ送付及協議ヲ爲スヲ要セズ

官房需機密第二七二號

軍需支那及軍需支庫ニ於テ供給スル艦營需品、燃料等ノ供給範

圍當分ノ開左ノ通定ム

昭和十九年八月二日

海軍大臣

海軍大臣

護ケ浦、占守軍需支那

海軍公報 第四七五八號

昭和十九年八月三日

主トシテ航空隊所要ノ給養品、燃料（潤滑油）、被服及糧食

四日市、徳山軍需支庫

長崎、那覇軍需支庫

燃料（潤滑油）、糸屑、古綿布及糧食

佐伯軍需支庫

給養品、燃料（潤滑油）、被服（貸與品）及糧食

館山、鹿屋軍需支庫

主トシテ各航空隊所要ノ燃料（潤滑油）、糸屑及古綿布

女川、父島、宿毛、富江、大島、真交島、串本軍需支庫

臨時所要ノ燃料（潤滑油）、糸屑及古綿布

昭和十八年官房需機密第四六一號ハ之ヲ廢止ス

（參照）

昭和十八年官房需機密第四六一號ハ軍需支庫及軍需支庫ニ於ケル給養品、燃料等供給範圍ノ件ナリ（昭和十八年九月八日海軍公報（部内限）第四百八十七號）

○ 運 送

運輸第一一五〇號

昭和十九年七月三十一日

關係各廳長殿

海軍運輸本部長

戦死者遺留品無貨輸送ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ運通省ヨリ別紙ノ通通知有之候條了知相成度

（別紙）

鐵業制第二六六號

昭和十九年六月二十一日

鐵道總局業務局長
自動車局長

陸軍關係一般

戦死者遺留品ニ對スル特殊取扱ニ關スル件依
命通牒

小荷物ニ依ル戦死者遺留品ハ無貨ヲ以テ運送スルコトナリタルニ付七月一日ヨリ左記各號ニ依リ取扱相成度

道テ右荷物ノ運送ニ關シテハ其ノ性質上同時輸送方特ニ配慮相成度

尙小荷物ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道及軌道（連絡運輸ノ場合ヲ含ム）並ニ省ト連絡運輸ヲ爲ス自動車線及航路ニ對シテモ同様ノ取扱ヲ爲ス様通牒（地方鐵道及軌道ニ在リテハ鐵道軌道統制會ノ指示）相成候

記

一 一般小荷物トシテ受託スルコト

二 受託ニ當リテハ別紙様式ノ證明書ヲ提出セシムルコト

三 差當リ第三種手荷物切符（切符甲、丙片ノ運賃表示ハ之ヲ抹消シ各片表面餘白ニ（無）又ハ（ム）ト表示スルコト）ヲ使用シ得ルコト

（別紙様式）

(番 號)

戦死者遺留品証明書

託送年月日	昭和 年 月 日
輸送區間	自 驛 至 驛
品名箇數	戦死者遺留品 箇

右證明ス

昭和 年 月 日

官 職 氏 名 團

備考

- (一) 本書ハ陸海軍ノ官衙、部隊又ハ艦船ニ於テ之ヲ發行スルモノトス
- (二) 本書ハ一日毎ニ發行ス但シ軍託送ニ係ルモノヲ同時ニ

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戦歿者	喪葬管理者	場	所	記事
八月十二日一三〇〇	故海軍少佐村上 強外諸勇士	高松地方海軍人事部長	高松市縣公會堂	佛式	
同	故海軍少佐藤原博外諸勇士	大阪地方海軍人事部長	海軍會館	同	
八月十九日〇九三〇	故海軍少佐小林宇太郎外諸勇士	松江地方海軍人事部長	松江市公會堂	同	

多數託送スル場合ハ數口分ニ付一通發行スルコトヲ得此ノ場合ハ著驛名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

○雜 款

○集會所設置

横須賀水交社名古屋集會所ヲ七月十七日名古屋市東區白壁町二丁目二番地ニ設置セリ

(横須賀水交社)

○事務所撤去

第三百二設營隊事務所ハ七月二十七日之ヲ撤去セリ

○宿所並ニ電話架設

海軍運輸本部長海軍少將堀江義一郎宅東京都澁谷區千駄ヶ谷五ノ八二六

電話 四谷 五八八五番

昭和八年八月三十一日

一五〇	一六〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇	二一〇	二二〇	二三〇	二四〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	二九〇	三〇〇	三一〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇	三六〇	三七〇	三八〇	三九〇	四〇〇	四一〇	四二〇	四三〇	四四〇	四五〇	四六〇	四七〇	四八〇	四九〇	五〇〇
一五〇	一六〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇	二一〇	二二〇	二三〇	二四〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	二九〇	三〇〇	三一〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇	三六〇	三七〇	三八〇	三九〇	四〇〇	四一〇	四二〇	四三〇	四四〇	四五〇	四六〇	四七〇	四八〇	四九〇	五〇〇
一五〇	一六〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇	二一〇	二二〇	二三〇	二四〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	二九〇	三〇〇	三一〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇	三六〇	三七〇	三八〇	三九〇	四〇〇	四一〇	四二〇	四三〇	四四〇	四五〇	四六〇	四七〇	四八〇	四九〇	五〇〇
一五〇	一六〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇	二一〇	二二〇	二三〇	二四〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	二九〇	三〇〇	三一〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇	三六〇	三七〇	三八〇	三九〇	四〇〇	四一〇	四二〇	四三〇	四四〇	四五〇	四六〇	四七〇	四八〇	四九〇	五〇〇

一五〇
一六〇
一七〇
一八〇
一九〇
二〇〇
二一〇
二二〇
二三〇
二四〇
二五〇
二六〇
二七〇
二八〇
二九〇
三〇〇
三一〇
三二〇
三三〇
三四〇
三五〇
三六〇
三七〇
三八〇
三九〇
四〇〇
四一〇
四二〇
四三〇
四四〇
四五〇
四六〇
四七〇
四八〇
四九〇
五〇〇

一五〇
一六〇
一七〇
一八〇
一九〇
二〇〇
二一〇
二二〇
二三〇
二四〇
二五〇
二六〇
二七〇
二八〇
二九〇
三〇〇
三一〇
三二〇
三三〇
三四〇
三五〇
三六〇
三七〇
三八〇
三九〇
四〇〇
四一〇
四二〇
四三〇
四四〇
四五〇
四六〇
四七〇
四八〇
四九〇
五〇〇

改メ同表備考第一號中「驅逐艦」ノ下ニ「輸送艦」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十九年七月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第二表ノ改正規定中第三欄ノ二三關スル部分ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
昭和十四年官房機密第五五二七號ハ昭和十九年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

(参照) 海軍機密會計法規類集二一六頁

○ 通 牒

官房機密第四八五號
昭和十九年八月四日

關係各廳長殿
海軍省 副官

祕海軍公報 第四七五九號 昭和十九年八月四日

軍械祕海軍公報ノ配付先指定ニ關スル件申進

官房機密第四六七號ヲ以テ八月一日以降軍械祕海軍公報發行セラレ候處同公報ノ配付先ニ關シテハ甲配付(各廳長ニ配付ス)及乙配付(各司令部並ニ關係各廳ノミニ配付ス)ニ區分セララルニ付テハ自今同公報ニ掲載スベキ原稿ニハ必ズ「甲配付」又ハ「乙配付」ト指定相成度

○ 雜 談

○司令驅逐艦指定

第四十一驅逐隊司令ハ七月二十二日司令驅逐艦ヲ驅逐艦各月ニ指定セリ

○旅費支給ニ關スル件

八月一日以降當隊ヘノ赴任轉勤者ニ對スル旅費(家族移轉料ヲ除ク)ハ總テ北海道網走郡美幌町迄前金拂ノコトニ取計ハレ度 (第七〇一海軍航空隊)

○事務所移轉

第二海軍療品廠ハ七月二十五日左ニ移轉セリ
場 所 大阪市東區安土町四丁目北御堂前(安土町ビルディング)

電話本町

三六四番(廠長室)
三六五番(總務部)
三六六番(補給部)
三六七番(會計部)

1007

一〇四七

事務所撤去

第百三十四號海防艦艇裝具事務所ハ七月十五日之ヲ撤去セリ

第五十六號海防艦艇裝具事務所ハ七月二十六日之ヲ撤去ス

第四十三號海防艦艇裝具事務所ハ七月三十日之ヲ撤去セリ

海軍大尉岩佐 之七月十四日飛行訓練中遭難殉職七月十八日幕南海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ
海軍中尉古賀貫之七月十八日飛行訓練中遭難殉職七月二十一日高雄海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

(四八)

1001

海軍公報

第四七六〇號

昭和十九年八月五日(土)
海軍大臣官房

命令

内令第九〇八號

昭和十八年内令第十一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

厚木航空基地

第一〇八一海軍航空隊

厚木航空基地

第三〇二海軍航空隊

松島航空基地

ノ削ル

(内令變更要綱第三〇ノ四一頁参照)

内令第九〇九號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

呂號第五十潜水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

海防艦 鶴 米

佐世保鎮守府在籍

海防艦 鶴 米

右警備海防艦ト定メラル

敷設艇 網 代

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

敷設艇 網 代

右警備敷設艇ト定メラル

第百八號哨戒艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一〇號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第百十八號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第百八十九號驅潛特務艇

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一一號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

海軍公報 第四七六〇號 昭和十九年八月五日

一〇四九

海軍公報

第四七六〇號

昭和十九年八月五日(土)
海軍大臣官房

○令・達

内令第九〇八號

昭和十八年内令第十一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

厚木航空基地

第一〇八一海軍航空隊

ノ

厚木航空基地

第三〇二海軍航空隊

ニ改メ

松島航空基地

ノ附ル

(内令提要別冊三〇ノ四二頁参照)

内令第九〇九號

右本籍ノ舞鶴鎮守府ト定メラル
昌號第五十潜水艦

右本籍ノ佐世保鎮守府ト定メラル

海防艦 鶴 來

佐世保鎮守府在籍

海防艦 鶴 來

右警備海防艦ト定メラル

敷設艇 網 代

右本籍ノ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

敷設艇 網 代

右警備敷設艇ト定メラル

第一百八號哨戒艇

右本籍ノ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一〇號

右本籍ノ吳鎮守府ト定ム

第一百十八號哨戒艇

右本籍ノ佐世保鎮守府ト定ム

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一一號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

海軍公報 第四七六〇號 昭和十九年八月五日

一〇四九

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項事務特務隊ノ關ニ第百七十五號(佐)ノ次ニ

第百八十九號(佐)ノ加フ

第二十三特別根據地隊ノ項ノ次ニ第百八十八號(要)ノ一項ヲ加フ

深根
三枝
四隊

第百八十八號(要)

(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)

内令第九一二號

特設船舶警戒部處務規程申左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

第六條表中

小隊 船舶警戒部小隊支部

小隊 船舶警戒部小隊支部

大阪 船舶警戒部大阪支部

改正ム

(内令提要卷二、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第九一三號

特設艦船部隊申左ノ通改正セラル

昭和十九年八月一日

第二條第二號中ニ特設練習艦隊ノ次ニ特設對潛訓練隊ニシテ

加フ
第十一章ノ八ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第十四章ノ九 特設對潛訓練隊

第十四條ノ三十四 特設對潛訓練隊ハ必要ニ應ジ之ヲ置キ對

潛訓練隊ト稱ス

對潛訓練隊ニ必要ニ應ジ艦船又ハ特設艇船等ノ附屬スルコト

ヲ得

第四十九條ノ三十五 對潛訓練隊ハ對潛艦艇ノ乗員クルヘキ者

ノ教育訓練及對潛術ノ實驗及研究ニ關スルコトヲ掌ル

第四十九條ノ三十六 對潛訓練隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令

一隊附

第四十九條ノ三十七 司令ハ吳鎮守府司令長官ニ隸シ部下ノ統

率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス但シ教育訓練並ニ對

潛術ノ實驗及研究ニ關シテハ海軍對潛學校長ノ區域ヲ受クル

モノトス

第四十九條ノ三十八 司令缺員中又ハ事故アリテ職務ヲ執ルコ

ト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ

代理ス

第四十九條ノ三十九 隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

(内令提要卷二、四七頁参照)

内令第九一四號

昭和十八年内令第二千四百五十四號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 工事進捗程度寫眞

(イ) 同一建造所ニ於ケル同型第一艦

前月ニ比シ比較的變化少ナキ場合ハ其ノ旨報告シ寫眞ノ

提出又ハ送付ソ省略スルコトヲ得

(ロ) 同一建造所ニ於ケル同型第二艦以降

寫眞ノ提出又ハ送付ソ省略スルコトヲ得

(内令提要卷三、二二二ノ四ノ九頁参照)

内令第九一五號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

正セラル

昭和十九年八月一日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中第九五二海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷二、三〇ノ三九頁参照)

内令第九一六號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正

セラル

昭和十九年八月一日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中

第一海軍補充部	サイパン
第二海軍補充部	ラバウル

第一海軍補充部

トラツク

第二海軍補充部

ラバウル

第五海軍補充部

マニラ

ニ改ム

(内令提要卷二、三八ノ六〇頁参照)

内令第九一七號

特設海軍補充部處務規程申左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

第二條表中「及ギルバート諸島」ヲ「西カロリン諸島」ニ改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

第五海軍補充部

内南洋ノ一部(西カロリン諸島)及フィリピン群島方面行動及所在ノ各部

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

作戦上其ノ他ノ事情ニ因リ前項ノ分擔ニ依リ難キ場合ニ於テハ當該部長ハ相互協議ノ上一時彼此變更スルコトヲ得此ノ場

合三、第六十ク、第六其ノ事由ノ附シ所屬長官ニ報告スル

(内令提要卷二、三八ノ五九頁参照)

内令第九一八號

昭和九年内令第四百十六號別冊艇、特務艇機關使用限度標準表中別表ノ通改正ス

別表ハ海軍省軍務局長ノシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム
昭和十九年八月二日

海軍大臣

内令第九一九號 (軍機秘公報 (乙配付) (掲載))

内令第九二〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年八月二日

海軍大臣

第三十二潜水隊ノ項中「伊號第七十七、一」ヲ削ル

第三十四潜水隊ノ項中「昌號第三十六」ノ上ニ「伊號第七十七、一」ヲ加フ

(内令提要卷三、七頁参照)

内令第九二二號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年八月二日

海軍大臣

第三十一潜水隊ノ項中「第十八號」ノ下ニ「第三十三號、第三十七號、第三十八號」ヲ加フ

(内令提要卷二、七三頁参照)

内令第九二三號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス
昭和十九年八月二日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第十一號横」ノ前ニ「第六號(佐)」ヲ加フ

紀伊防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第九十七號(阪)」ノ前ニ「第二十二號(吳)」ヲ加フ

南東方面艦隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二十號(吳)」ヲ削ル

第四警備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第十六警備隊

第四十一警備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第六號(佐)」ヲ削ル

第五十五警備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第六十七號(鎮)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二頁参照)

内令第九二四號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年八月二日

海軍大臣

第十七掃海隊ノ項ニ削ル

(内令提要卷二、一五一頁参照)

内令第九二四號

昭和十八年内令第二千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設敷設艇ノ欄ニ「金城丸(横)」ヲ、特設
 駆潜艇ノ欄「日就丸(横)」ノ次ニ「第七京丸(横)、第三利丸
 (横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「東郷丸(横)」ノ次ニ「羽衣丸(横)、
 第七昭和丸(横)、第三關丸(横)、第二文丸(横)」ヲ加フ
 父島方面特別根據地隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第八利丸(横)、
 慶南丸(横)」ヲ加フ
 第五根據地隊ノ項驅潜艇ノ欄「第三昭南丸(横)、第十一昭
 南丸(横)、第七京丸(横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「第三關丸(横)、
 第二文丸(横)」ヲ削ル
 第三十根據地隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「鷗丸(横)」ノ次ニ「第十
 一昭南丸(横)」ヲ加フ
 第四十一警備隊ノ項特設敷設艇ノ欄「金城丸(横)」ヲ、特設掃海
 艇ノ欄「羽衣丸(横)」及「第七昭和丸(横)、第八昭和丸(横)」
 ヲ削ル

第八十一警備隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「第三利丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

○通 牒

教育機密第二六四號

昭和十九年七月二十四日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長一殿
各警備府參謀長一殿

海軍二等水兵(電信兵、暗號兵、電測兵、水
測兵及氣象兵タルベキ者ヲ除ク)ニ對スル機
銃教育ニ關スル件申進

對空機銃關係ノ教育普及ヲ要スルニ鑑ミ之方對策トシテ首題ノ
件當分ノ間左記ニ依リ實施ノコトニ取計ハレ度

記

- 一 二十五耗機銃(單裝)教育ノ爲約十五時間ヲ充當ス
 - 二 右ニ對スル充當時數ハ左ニ依ル
 - (イ) 二等水兵ニ對スル拳銃教育ハ當分ノ間中止ス
 - (ロ) 艦砲教練及水雷術ノ教務時數ノ一部縮減ス
- 道ヲ補充兵、國民兵ニ對シテモ基礎教育期間中右ハ單ジ教
育實施ノコトニ取計ハレ度

艦本機密第一號ノ一三二八六

昭和十九年八月三日

關係各局長殿

海軍艦政本部總務部長

信管ノ取扱ニ關シハ屢々注意ヲ喚起セラレアル處先般某艦ニ於テ上下機砲零式通常彈ニ彈頭信管ノ裝着ノ儘彈丸積卸作業ノ行ヒ彈頭部ノ擊突信管雷管ノ發火セシメタル事故有之候...

○表彰

防彈燃料「タンク」	造機部 熔接工手 橋口 彌八
金貳拾五圓	
右者肩書ノ考案ヲ爲シ頭書ノ通係世保海軍工廠長ヨリ技術賞與ノ支給セラレタリ	
航空修理發動機用鐵鋼及「アルミニウム」合金部品化學的洗滌法	發動機部 分折職手 大島 忠男
金參拾五圓	
同	一等分折員 中山 良平
金參拾圓	
同	早川 賴太郎

航空修理發動機用（鐵鋼及「アルミニウム」合金）部品 着炭素、鉛及「タール」質中ヨリ硝酸鉛ノ回收法	同 同 鶴岡
金拾五圓	
同	發動機部 分折職手 大島
金拾圓	
同	一等分折員 中山
金拾圓	
同	早川 信
右者各肩書ノ考案ヲ爲シ各頭書ノ通係海軍航空廠長ヨリ賞與ノ支給セラレタリ	
商車「ピツチ」之誤差計測器	造機部 検査工手 池袋
金五拾圓	
右者肩書ノ考案ヲ爲シ頭書ノ通係世保海軍工廠長ヨリ技術賞與ノ支給セラレタリ	
各種發條卷付機	機銃部 仕上職手 本馬
金參拾五圓	
九九式二十耗三號機銃推進ばね支持金孔煉裝置	機銃部 機工職手 山崎
金四拾五圓	
同	湯川 松
金貳拾圓	
同	
九六式二十五耗機銃三増給彈筒蓋取付孔内面而取要具	機銃部 一等仕上員 山田 平
金五拾圓	
右者各肩書ノ考案ヲ爲シ各頭書ノ通係海軍工廠長ヨリ技術賞與ノ支給セラレタリ	

○雜 談

本日軍機報海軍公報第二號（乙配付）發行セリ

海軍公報 第四七六一號

昭和十九年八月六日(日)

海軍大臣官房

1016

○令 達

内令第九二五號

汽船 第三昭南丸

右特設郵船トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第八昭和丸

同 第五利丸

右特設掃海艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年八月二日

海軍大臣

内令第九二六號

昭和十六年内令第九百二十三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、
呼稱及分掌事項ノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年八月二日

海軍大臣

徳島縣板野郡 第十一海軍航空廠徳島分工場

徳島縣板野郡 第十二海軍航空廠徳島分工場

仲饒縣島尻郡 第三十一海軍工廠神沖分工場

ニ改ム

内令第九二七號

驅逐艦 春 月

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

伊號第三百六十六潛水艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年八月三日

海軍大臣

内令第九二八號

大東亞戰爭中海軍機銃採取取扱規程ノ適用ヲ停止ス

昭和十九年八月四日

海軍大臣

(内令提要卷三、七〇七頁参照)

官房軍機密第一〇三三號

昌號委員會規程申左ノ通改正ス

昭和十九年八月二日

海軍大臣

別表副委員長ノ欄「第二海軍火藥廠長」ヲ「海軍省出仕(兼務)」ニ改ム

海軍公報 第四七六一號 昭和十九年八月六日

一〇五五

改メ委員ノ關中ニ海軍省軍務局局長 三ノ次ニ海軍省兵備局第二課長ノ、海軍省出仕 二ノ次ニ海軍省出仕兼軍令部出仕 二ノ次ノ加フ

(昭和十九年七月二十日海軍公報(部内限)本欄参照)

○通 牒

教育機密第二八〇號

昭和十九年八月四日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長殿

信號術(見張及信號專修)特技兵教程標準ノ

件通牒

昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙第一及第二ノ通定メラレ候

道ヲ昭和十八年教育機密第一六六號ハ廢止セラレ候

(別紙第一及第二添)

軍需三機密第七二九號

昭和十九年八月五日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空燃料臨時海軍規格制定ニ伴フ取扱ニ關スル

件申進

首題ノ件今般官房機密第二三〇號ヲ以テ制定セラレ候處有ハ

航空揮發油ノ増産ノ計ル爲現行規格ノ一部ノ變更セシモノニシテ貯蔵、供給等ニ關シテハ區別ノ要アルモ整理上ハ「甲」「乙」「丙」ノ區分ニ關係ナク燃料經理規程ノ該當品種トシテ取扱相成度

道ヲ附稱及記號ハ左記ニ依ル儀下リ知相成度

記

品	種	略	稱	記	發
航空九一揮發油	甲	空九一揮	甲	A九一G	甲
航空九一揮發油	乙	空九一揮	乙	A九一G	乙
航空八七揮發油	甲	空八七揮	甲	A八七G	甲
航空八七揮發油	乙	空八七揮	乙	A八七G	乙
航空八五揮發油	甲	空八五揮	甲	A八五G	甲
航空八五揮發油	丙	空八五揮	丙	A八五G	丙
航空八〇揮發油	甲	空八〇揮	甲	A八〇G	甲
航空八〇揮發油	丙	空八〇揮	丙	A八〇G	丙
航空七〇揮發油	甲	空七〇揮	甲	A七〇G	甲
航空七〇揮發油	丙	空七〇揮	丙	A七〇G	丙

航本機密第九三六五號

昭和十九年七月二十九日

1017

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

航空兵器改修通牒工事實施促進ニ關スル件照會

航空兵器ニ關スル各種改修通牒工事ハ緊急戰備上極メテ迅速ヲ要スルモノナル處書類、圖面ノ遅延不達等ニ基ク事務的處理及連絡不充分等ノ爲所定期日ノ工事完成ヲ阻害シツツアル實情ニアリ自今各航空廠、空技廠ハ通牒接受セバ別ニ指示アルモノノ外準備擔任區域内所在ノ艦船部隊ト密接ナル聯繫ヲトリ工事促進ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

○雜 款

○集會所設置

佐世保水交社諒早集會所ハ七月十三日大村海軍航空隊諒早分遣隊内ニ設置セリ

(佐世保水交社)

○事務所撤去

驅逐艦桐鷲裝具事務所ハ七月二十五日之ヲ撤去セリ

第五號輸送艦鷲裝具事務所ハ七月二十日之ヲ撤去セリ

敷設艇網代鷲裝具事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ

呂號第五十潜水艦鷲裝具事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ

海防艦鶴來鷲裝具事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ

○轉勤者旅行先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ北海道網走郡美幌町美幌航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第七〇一海軍航空隊)

第一四一海軍航空隊、偵察第三飛行隊、偵察第四飛行隊、戰鬥第八〇四飛行隊ニ赴任者ハ鹿兒島縣鹿屋市鹿屋航空基地(古江線大隅野里驛下車)ニ向ケ旅行セシメラレ度

(第一四一海軍航空隊)

自今當隊ヘノ轉勤者ハ千葉縣匝瑳郡共和村香取航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第七五三海軍航空隊派遣隊攻擊第二五六飛行隊)

○訂正

七月三十一日附海軍公報(部内限)合同海軍罪儀執行期日秋田地方海軍人事部ノ部八月二十二日ノ同月二十一日ニ訂正

○正誤

本年官房軍機密第九四八號(七月二十日海軍公報(部内限)九九一頁)別表委員ノ欄中「海軍艦政本部臨時資料部課長」ハ「海軍航空本部總務部第二課長」ニ訂正

海軍省海軍部海軍事務司海軍部職員
海軍省海軍部海軍事務司海軍部職員
海軍省海軍部海軍事務司海軍部職員
海軍省海軍部海軍事務司海軍部職員

海軍省海軍部海軍事務司海軍部職員

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所記事
八月十八日	故海軍少將榎 喜入太外諸勇士	佐世保海軍人事部長	佐世保市	佛式
八月二十四日	故海軍中佐尾辻秀一外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市	佛式
同	故海軍少佐吉川久吉外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴市	佛式
八月二十五日	同	同	同	同
八月二十五日	故海軍技師棚田清吉外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	東本願寺別院	佛式

○本日普通公報發行セズ

1019

(昭和十九年八月六日海軍公報)

科目	項目	日	節	豫定回数		記事
				三箇月	二箇月	
本務	旗	章旗章令、内外國ノ主ナル旗章	二	四	六〇	九三
	儀	禮式令、禮砲令	一	一	一	一
	諸法	規 勤務ニ必要ナル諸法規	一	一	一	一
	航海兵器器具	同上中ノ一部	一	一	一	一
	航路標識	同上中ノ一部	一	一	一	一
	海上衝突豫防法	同上中ノ一部	一	一	一	一
	諸日誌記註法	當直記録記註法同上ニ必要ナル氣象兵器觀測法、信號記註法	一	一	一	一
	信號要務	同上	一	一	一	一
	海軍信號法	艦隊運動程式	一〇	三	一	七
	信	味方識別信號法	一	一	一	一
號	電氣信號燈及其ノ他信號兵器器具信號用	一	一	一	一	
術	火工兵器	一	一	一	一	
	旗號信號法	一	一	一	一	
	信號教練	發光信號法	七	四	四	三
		手旗信號法	二五	一五	二〇	一〇

○印ハ夜間ヲ示ス

科										本								
科		補		見張			術			號			信			項		
武技、體技、體操	普通學	口達傳令	砲術	見張教練	見張兵器	見張法	吹奏	操式	譜調	信號教練	信號器具	海軍信號法	諸日誌記註法	海上衝突豫防法	航海兵器器具	航路標識	諸日誌記註法	信號要務
銃劍術、相撲體操、游泳	勤務ニ必要ナル「ローマ」字及假名遣	同上	陸戰要務、陸戰教練	同上	同上	同上	同上	同上	同上	手旗信號法	電氣信號燈及其ノ他信號兵器器具信號用	艦隊運動程式	兵器觀測法、信號誌記註法	同上ノ一部	同上ノ一部	同上ノ一部	兵器觀測法、信號誌記註法	同上
九	三	二	二	五	二	三五	三五	二五	二五	二五	七	二	二	二	二	二	二	二
				四		三三				二〇	四							
五	二	一	二	四		二〇				四一	三							

○印ハ夜間ヲ示ス

1021

教育機密第一八〇號 別紙第二

信號術(見張) 特技兵教程標準

(昭和十九年八月六日海軍公報)

科目項目		節		日		豫定回数		記事
本	見張法一般	見張ノ要旨						
		通則						
		報告法						
		天象氣象海象地象ノ物標視任ニ及ホス影						
		艦船見張法						
		潜水艦見張法						
		航空機見張法						
		魚雷機雷浮流物見張法						
		距離目測法						
		艦船(機)識別法						
保安見張法	見張法	動靜判知法						

1022

海軍公報 第四七六二號

昭和十九年八月七日(月)
海軍大臣官房

○通 牒

經決機密第四號

昭和十九年八月五日

海軍省 經理局長

各 支 出 官 殿

會計規則及各特別會計規則ニ依リ調製ヲ要スル
諸報告書申様式改正ニ關スル件通牒

本年六月二十八日官房經第五九五號及同日經豫機密第三號ノ四
四ニ依リ提出スベキ諸報告書類ハ本年七月十八日大藏省令第八
二號(七月十八日官報)ニ準ジ調製ノコトニ取計相成度

水機密第二二一號ノ一

昭和十九年七月二十五日

水 路 部 長

關係各廳長殿

支那、南方及北方方面地圖取扱區分變更ノ件
通牒

首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒應有之候條子
知相成度

(別紙)

大本營陸軍部參密第一三號第一七七

支那、南方及北方方面地圖取扱區分變更ノ件
通牒

昭和十九年七月十五日

大本營陸軍參謀部總務課長

水 路 部 長 殿

首題ノ件左記ノ如ク取扱區分ヲ變更セラレタルニ付依命通牒ス
追テ既ニ交付ヲ受ケアルモノハ保管者ニ於テ秘區分標記ヲ訂
正(一連番號アルモノハ削除)或ハ新ニ註記シ本通牒ノ日附
ヲ以テ保管原簿ヲ整理相成度
尙同梯尺ノ地圖ニシテ重複シアルモノハ精度不良ナル分ヲ毀
版トナシ之ヲ整理ノ上近ク支那並ニ内邦兵要地圖整備目錄ヲ
以テ示サルヘキニ付申添フ

記

一、支那方面

- 1 民國製五萬分一圖 秘
- 2 民國製集成五萬分一圖 秘
- 3 民國製十萬分一圖 秘
- 4 民國製並ニ繪製集成十萬分一圖 秘
- 5 俄製北支那並ニ南支那十萬分一圖 秘

總海軍公報 第四七六二號 昭和十九年八月七日

一〇五九

1020

6 北支那並南支那十萬分一圖 極秘

7 東亞並支那五十萬分一圖 極秘

8 空中寫眞測量要圖 軍事秘密(戰地ニ限リ極秘)

9 兵要地誌圖 軍事秘密(戰地ニ限リ極秘)

10 其ノ他民國製地圖ノ複製シクルモノ 秘

二、南方方面

1 伊豆七島、小笠原群島、硫黃諸島、南西諸島及基隆、高雄、澎湖島各要塞近傍十萬分一以上一萬分一(含マス)以下ノ地形圖 軍事秘密(戰地ニ限リ極秘)

2 「マリアナ」諸島、「マーシャル」群島、「カロリン」群島「パラオ」諸島及其ノ他中部太平洋上ノ諸島十萬分一以上ノ地形圖 軍事秘密(戰地ニ限リ極秘)

三、北方方面

千島列島十萬分一以上一萬分一(含マス)以下ノ地形圖 軍事秘密(戰地ニ限リ極秘)

四、航空圖

三百萬分一以上百萬分一以下ノモノ 極秘

○職 款

○外國武官離任
在本邦泰國大使館附海軍武官海軍大佐 Pradyat Saeng-Xuto
ハ七月五日離任セリ

○分室開設

八月一日高雄海軍病院東山分室(臺北州七星郡士林街東山字磯溪内一四六番地舊巴旅館)ノ開設セリ

電話 市内電話(士林)六番

下車驛 縱貫線臺北驛(乘合自動車ニテ約四十五分)淡水線新北投驛(乘合自動車ニテ約三十分)

(高雄海軍病院)

○基地移轉

當隊八月一日左記ニ移轉ニ付轉勤者ハ網走本線女滿別驛下車赴任(旅費ハ家族移轉料ノ除ク外前金拂)ノコトニ取計ノ得度

記

北海道網走郡女滿別局氣付

第二美幌航空基地七二八

(第五五三海軍航空隊)

○事務所撤去

第二十五魚雷艇隊事務所ハ六月十一日之ヲ撤去セリ

○訂正

七月三十一日附海軍公報(部内限)合同海軍葬儀執行期日秋田地方海軍人事部ノ部「八月二十二日」ヲ「同月三十一日」ニ訂正

海軍公報 第四七六三號

昭和十九年八月八日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令兵第六〇號

昭和十八年内令兵第九十二號火工兵器領收検査規則第百三條及第百五條中「各種通常彈炸藥(三式通常彈炸藥ヲ除ク)」ヲ「十五種砲以下(短十二種砲ヲ除ク)各種通常彈炸藥」ニ改ム
昭和十九年八月七日

海軍大臣

官房軍第九五七號

昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依ル海軍監獄及同分監ノ所屬、名稱及位置ノ左ノ通定ム

昭和十七年官房第四六八七號ハ之ヲ廢止ス

海軍大臣

所 屬	海軍監獄ノ名稱	位 置	分監ノ名稱	位 置
支那方面艦隊	第一海軍刑務所	上海	第一海軍刑務所	青島
第二遣支艦隊	第二海軍刑務所	香港	第二海軍刑務所	漢口
第一南遣艦隊	第三海軍刑務所	暹南	第三海軍刑務所	廈門

秘海軍公報 第四七六三號

昭和十九年八月八日

(内令提要卷一、四三頁参照)

官房軍第九五八號

昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ設置セラレタル海軍監獄ノ職員配置ノ左ノ通定ム

昭和十八年官房第一〇九七號ハ之ヲ廢止ス

海軍大臣

隊	刑務所	支所	支所	支所
第二南遣艦隊	第百二海軍刑務所	マカッサル	第百二海軍刑務所	スラバヤ
第三南遣艦隊	第百三海軍刑務所	マニラ	第百三海軍刑務所	バリバク
第四南遣艦隊	第百四海軍刑務所	アンボン		
海南警備府	海南海軍刑務所	三 亞	海南海軍刑務所	海 口
南東方面艦隊	南東方面海軍刑務所	ラバウル		
第八艦隊	第八海軍刑務所	ブイン		

一〇六一

第一海軍刑務所第一支所				五
第二海軍刑務所第二支所				五
第三海軍刑務所				九内兼 九務一
第四海軍刑務所支所				五
第五海軍刑務所				五
第六海軍刑務所				五
第七海軍刑務所第一支所				五
第八海軍刑務所第二支所				五
第九海軍刑務所				五
第十海軍刑務所				五
第十一海軍刑務所				五
第十二海軍刑務所				五
第十三海軍刑務所				五
第十四海軍刑務所				五
第十五海軍刑務所				五
第十六海軍刑務所				五
第十七海軍刑務所				五
第十八海軍刑務所				五
第十九海軍刑務所				五
第二十海軍刑務所				五
第二十一海軍刑務所				五
第二十二海軍刑務所				五
第二十三海軍刑務所				五
第二十四海軍刑務所				五
第二十五海軍刑務所				五
第二十六海軍刑務所				五
第二十七海軍刑務所				五
第二十八海軍刑務所				五
第二十九海軍刑務所				五
第三十海軍刑務所				五
第三十一海軍刑務所				五
第三十二海軍刑務所				五
第三十三海軍刑務所				五
第三十四海軍刑務所				五
第三十五海軍刑務所				五
第三十六海軍刑務所				五
第三十七海軍刑務所				五
第三十八海軍刑務所				五
第三十九海軍刑務所				五
第四十海軍刑務所				五
第四十一海軍刑務所				五
第四十二海軍刑務所				五
第四十三海軍刑務所				五
第四十四海軍刑務所				五
第四十五海軍刑務所				五
第四十六海軍刑務所				五
第四十七海軍刑務所				五
第四十八海軍刑務所				五
第四十九海軍刑務所				五
第五十海軍刑務所				五

参照 昭和十八年官房軍第一〇九七號ハ臨時海軍監獄ニ職員配座ノ
 件ナリ(昭和十八年九月三十日海軍公報(部内限))
 官房人機密第一五八四號
 第五海軍補充部職員中特務士官以下ハ所管ニ拘ラズ吳鎮守府在
 籍者ヲ以テ之ヲ補充スベシ
 昭和十九年八月七日

海軍大臣

官房機密第一一八六號
 昭和十六年官房機密第一一六三九號中左ノ通告正ス
 昭和十九年八月七日

第一項第六號中「特設魚雷調整班」ノ次ニ「特設發發隊」ノ加
 附則
 本令ハ昭和十九年七月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
 (参照) 海軍機密會計法規類集一三四頁

○通 達

官房第五四九號
 昭和十九年八月七日

各 廳 長 殿 海軍省 副 官

公文書ノ件名番號附點ニ關スル件申進
 近來各廳ニ於ケル公文書類ニ對スル件名番號ノ附點適正ナラザ
 ルモノ有之機密事項ニ關スル公文書ニ普通件名番號ヲ附點シ或
 ハ同一機密事項ト認メラルモノニ機密件名番號ト普通件名番
 號トヲ混同附點スル等其ノ取扱區々ニ五リ機密保持上竝ニ事務
 處理上遺憾ノ點有之候ニ付自今首題ノ件ニ關シテハ當務者ヲシ
 テ一層留意セシメラレ度

官房軍機密第一〇二八號
昭和十九年八月七日

海軍省 副官

關係各廳長殿

進水式ノ際御臨幸又ハ皇族御差遣申請ニ關スル件通牒

從來戰艦航空母艦及一等巡洋艦ノ進水式ノ際ハ御臨幸又ハ皇族御差遣ヲ申請スルコトニナリ居ル處時局ニ鑑ミ當分ノ内特別ノ場合ノ外差遣セザルコトニ定メラレ候條了知相成度

官房備機密第三二八號ノ七

昭和十九年八月七日

海軍省 副官

各 廳 長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄所在地區別符表(其ノ二)中ニ

ク ク ロ バ ン ナ 貳參

ノ加フ

附錄部隊區別符表(其ノ一)中ニ

秘海軍公報 第四七六三號 昭和十九年八月八日

第三	百二十三	設營隊	ウ	四五六
第三	百二十二	設營隊	ウ	四五七
第三	百二十四	設營隊	ウ	四五八
第三	百二十五	設營隊	ウ	四五九
第三	百四	設營隊	ウ	四六〇
第三	百三	設營隊	ウ	四六一
第三	百五	設營隊	ウ	四六二
第三	百六	設營隊	ウ	四六三
同	ノ加フ	(其ノ二)中ニ		
第十	四	防疫班	ア	六參
同	ノ加フ	(其ノ三)中ニ		
第二	十七	魚雷艇隊	イ	壹參
同	ノ加フ	(其ノ四)中ニ		
第五	〇	五船船防空隊	セ	壹七參
第五	三	三船船防空隊	セ	壹七四

1027

ノ加フ

軍務二機密第六三三號

昭和十九年八月二日

關係各總長 殿

海軍省軍務局長

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊
急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通防空總本部業務局長ヨリ協力方依頼有
之候條可然取計相成度

(別紙)

防業一九發第八五號

昭和十九年七月十四日

海軍省軍務局長 殿

防空總本部業務局長

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊
急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件
標記ノ件ニ關シ本日別紙寫ノ通各部廳府縣長官宛通牒致置候條
御了知ノ上格別ノ御協力相煩度此段及通知候也

(別紙)

防業一九發第八五號

昭和十九年七月十四日

防空總本部業務局長

各部廳府縣長官 殿

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊
急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件
去ル六月十六日敵米機ノ北九州生産地帶空襲ノ事例等ニ鑑ミ
生産防空上特ニ緊急措置ヲ要スベキ事項左記ノ通ニ有之候條茲
指示シアル工場防空指針並ニ本年四月以降ノ生産防空態勢強
ニ關スル通牒等ニ依ルノ外本通牒ニ基キ關係軍需監理部ノ始
關係地方官廳下一層緊密ニ連繫シ都廳府縣、他官廳、警察、海
防官署、市町村、工場、事業場等ノ責任者ニ於テ夫々擔當事項
ニ關シ急速且強力ニ防空ノ整備強化ヲ實現シ以テ生産防空態勢
ノ確立ニ關シ格段ノ御努力相成度此段及通牒候也
追テ今次ノ空襲ハ主トシテ爆彈ニ依ル攻撃ニシテ一般ノ空襲態
様ト異リ居ルニ付之ヲ以テ空襲ノ一般態様ト連斷スルコトナク
左記事項ニ留意シ既往ノ指針方針ヲ益々強化徹底シ各種各様ノ
空襲ニ對應セシムル様各生産關係責任者ヲ招集ノ上關係事項ヲ
強力ニ指示シ期日ヲ定メ之方成果擧揚ニ努メラレ度

記

一 生産防空指導力ヲ強化スルコト

(一) 都廳府縣ニ於ケル生産防空指導組織ヲ更ニ整備強化スル
ト共ニ警察消防官署等ノ最末端指導者ニ對スル指導教育ヲ
徹底スルコト

(二) 工場、事業場、鑛山並ニ電氣、瓦斯水道等供給施設及地方
鐵道軌道通信、港灣等交通通信施設ニ於ケル防空責任者ノ

指揮能力ノ急速ナル向上ヲ圖リ且ツ一般要員ニ對スル指導教育ヲ徹底セシムルコト

二 生産防空隣保組織ヲ確立スルコト

(一) 空襲時ニ於ケル生産確保ノ爲重要工場、事業場等ヲ中心トシテ同一生産系列下ニアル協力工場並ニ同一地域内ニ於ケル工場、事業場及之ニ關聯スル供給、交通、通信又ハ防空關係諸機關トシテ生産防空隣保組織ヲ急速ニ確立スルコト

(二) 右生産防空隣保組織ノ目的ハ空襲被害時ニ於ケル相互間ノ應援協力、轉換、應急復舊、情報連絡等ヲ主眼トシ其ノ組織ハ工場、事業場ノ配置、生産系列、防空要員數、附近ノ防空機關等現地ノ實情ヲ勘案ノ上適切ナル組織トスルコト

三 防空警報發令時ニ於ケル作業計畫ヲ具體的ニ確立シ之ヲ徹底セシムルコト

(一) 工場、事業場ニシテ防空警報發令時ノ作業計畫(工場防空指針)參照)未整備ノモノハ急速ニ整備確立セシムルト共ニ既整備ノモノニ付テハ再檢討ノ上努メテ實情ニ適合スル如ク具體的ニ確立セシムルコト

(二) 右作業計畫ノ内容及防空警報發令時ニ於ケル特設防護圍、職場防空群等ノ活動要領ハ之ヲ幹部並ニ直接關係者ノミニ限定シテ承知セシムベキ事項ト全従業員ニ指示スベキ事項ニ区分シ指導訓練ノ徹底ヲ期セシムルコト

四 煙火管制施設ノ整備並ニ管制ノ徹底ヲ期セシムルコト

(一) 防空警報發令時ニ於テ作業ノ繼續ヲ要スル工場、事業

場ニ於ケル煙火管制施設ヲ完備セシメ且管制ノ徹底ヲ期セシムルコト

(二) 工場周邊ニ於ケル一般ノ煙火管制ヲ徹底シ工場地帯全般ノ綜合的效果ヲ收メシムルコト

(三) 特ニ煙火管制下ニ於ケル懐中電燈燐寸等ノ使用ニ關シテモ特段ノ注意ヲ喚起シ要スレバ標識燈ノ整備ヲ圖ラシムルコト

五 要部ノ防彈片施設ヲ急速ニ整備セシムルコト

重要工場、事業場ノ要部並ニ爆撃ニ因リ二次的被害ヲ蒙ル虞大ナル箇所ニ對シテハ從前ノ指導ニ從ヒ更ニ一層創意工夫シ急速ニ防彈片施設ヲ整備セシムルコト

六 待避施設ヲ急速ニ整備セシムルコト

待避施設ハ既往ノ指導方針(工場防空指針)二四頁參照)ニ從ヒ全従業員ヲ收容シ得ル様急速ニ整備セシムルコト殊ニ輕掩蓋ヲ關調スルコト

七 危險物有毒瓦斯等ヲ貯藏使用製造シアル工場ニ於ケル防空措置ヲ強化スルコト

(一) 爆發性、引火性、有毒性等ノ危險物(硝子製器具、エーテル、ベンゾール、アルコール、メタノール、アセトン、揮發油、油類類、燐、金屬、青酸、鹽素、アロム、ホスゲン、亞硫酸瓦斯、カーバイド、鹼類等)ヲ原料製品トシテ使用スル工場、事業場(例、化學工場、製藥工場、燐寸工場等)ハ在リテハ必ズシテ生産上ノ重要工場ニ準ラザ

1029

七、各種危険物ハ平時貯蔵ニ付地窖ニ格納スル等必要ナル防空施設ノ整備セシムルト共ニ常時使用スルモノニ付テハ空襲時ニ於ケル被害ノ局限スル爲警戒警報發令ト同時ニ地下ニ格納スル等ノ方途ヲ講ゼシムルコト

(一) 特ニ各種危険物ハ平時貯蔵ニ付地窖ニ格納スル等必要ナル防空施設ノ整備セシムルト共ニ常時使用スルモノニ付テハ空襲時ニ於ケル被害ノ局限スル爲警戒警報發令ト同時ニ地下ニ格納スル等ノ方途ヲ講ゼシムルコト

(二) 危險物タル原料製品ノ輸送系路搬出入ノ方法等ニ關シテモ併テ空襲時ニ對處シ適切ナル措置ヲ講ゼシムルコト

(三) 電氣、瓦斯、水道等ニ付テハ需要側ノ調査ヲナシタル上供給停止ニ因ル二次的被害ノ防止對策ヲ樹立セシムルコト

(一) 電氣、瓦斯、水道施設ニ付テハ需要ノ實情ヲ調査シ置キ被害時供給能力縮減セラレタル場合ニ於ケル供給ノ優先順位、復舊順位等ノ具體的ニ定メ置クコト

(二) 空襲被害ニ因リ供給停止又ハ溢流、放出等ニ依リ發生スル二次的被害防止ノ計畫ヲ具體的ニ策定セシメ置クコト

(三) 特ニ電氣ト瓦斯、水道ト瓦斯、電氣ト水道或ハ三者ノ被害競合セル場合ニ於ケル應急措置ニ對シ萬全ノ措置ヲ講ゼシムルコト

九 工場ノ分散疎開ヲ強力ニ推進スルコト

(一) 中央關係省ニ於テ決定セル工場、事業場等ノ分散疎開ニ

關シハ既往油牒ノ趣旨ニ依リ協力ノ上疎開ノ推進ヲ圖ルコト

(二) 重要生産地帯ニ於ケル群小工場等ニシテ該地場防空上必要ナル場合ハ可及的ニ之ノ分散疎開ヲシムルコト

(三) 工場、事業場ノ内部ニ於テモ生産ニ支障ナキ不要不急ノ木造建築物等ノ極力疎開セシムルコト

(一) 被害情報ノ連絡通報並ニ指揮命令ノ傳達ノ迅速確實ナラシムルコト

(二) 生産防空關係諸施設ニ電力、瓦斯、水道等ノ供給施設及鐵道、軌道等交通施設ノ被害時ニ於ケル急速措置ハ生産ニ至大ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ之等諸施設ノ被害情報ヲ迅速確實ニ連絡通報スル爲右生産諸施設ノ被害現場ト指揮中樞機關及指揮中樞機關相間並ニコレヲ關係防空諸機關トノ連絡方法ヲ具體的ニ定ムルコト

(一) 工場、事業場ニ於テハ指揮中樞本部ヲ整備強化シ適時適切ナル指揮命令ヲ迅速確實ニ傳達セシムルコト

兵備三機密第七(七)號
昭和十九年八月七日

關係各廳長殿
海軍省兵備局長
海軍省經理局長

小型徵備船舶船員給與ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ既ニ昭和十八年十一月七日契八機密第一八

1030

號ノ一八六ヲ以テ通牒シタル處其ノ後機帆船漁船等小型徴備船舶急増シツツアリ之等船舶乗組員家族中ニハ本人ヨリノ送金ヲ主タル收入トナスモノ尠カラズ送金絶ヘタル時ハ一家ノ生計困難ヲ生ズルモノアリ或ハ行動上乙船員ニ對スル船主送金不如意ノコトモアルニ付左記實行方特ニ配慮相成度

記

- 一、甲船員及徴用船員ニ付テハ採用又ハ徴用時必ズ家族渡シ請求セシムルコト 現ニ家族渡請求手續未済ノ者ニ付テハ現配屬應ニ於テ請求スル様指導ノコト
- 二、乙船員ニシテ船主ヨリノ送金不如意等ノ爲海軍ニ於テ直接給料ヲ支給スルヲ適當ト認ムル場合ハ契約上甲船員トシテ取扱フコト
- 三、乙船員ニシテ乗組船舶沈没後引續キ海軍關係船舶ニ轉乘セシメラルル者ハ甲船員トシテ取扱フコト

艦本機密兵航第四九六號

昭和十九年八月五日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

九九式測深儀用補用送波器還納ノ件照會(航海長主管)

各艦船ニ裝備ノ九九式測深儀一組ノ内補用送波器一個ハ内地最寄海軍軍需部ニ還納方取計相成度

海軍公報 第四七六三號

昭和十九年八月八日

艦本機密第一二號ノ一二七二九

昭和十九年七月二十八日

海軍艦政本部總務部長

内國各監督長
首席監督官一殿

艦船兵器造修用圖面取扱規程ニ關スル件通知

首題規程第四條、第十六條及第十九條規定ニ關聯ノ海軍艦政本部長又ハ海軍艦政本部主務部長ノ承認スル圖面ノ監督官控ハ之ヲ省略シ監督官控及會社控ノ連名トシ處理致スコトニ定メラレ候條可然取計相成度

追テ右ハ資材節約ノ見地ヨリ定メラレタル次第ニ付監督官ノ承認スル圖面ニ對シテモ本趣旨ニ則リ可然處理相成度
尙監督官ニ於テ特ニ控ヲ必要ト認ムル圖面ニ付テハ監督官、會社間折衝ノ上適宜決定相成度

運本機密第一一八五號

昭和十九年七月三十一日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

軍用貨物鐵道輸送ニ關スル件通知

最近ノ鐵道輸送力逼迫ト軍用貨物ノ輸送トニ鑑ミ輸送順序調整ノ必要上海軍運輸本部及海軍運輸部(運輸部支那及出張所ノ含ム)ニ於テ取扱フ首題ノ件ニ關シテハ昭和十七年一月十四日海軍運輸第十一號海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續ニ依ルノ外當分ノ間左記ニ依リ取扱フコトト致候

一〇六七

一、輸送ノ区分

- (イ) 軍用貨物ニシテ到着日時ノ確保又ハ輸送ノ要スルモノノ軍用(甲)トシ
- (ロ) 輸送列中及連絡船便ノ指定スルモノトス
- (ハ) 軍用貨物ニシテ到着日時ノ確保又ハ急送ノ要セザルモノノ軍用(乙)トシ
- 發送日ノ指定スルモノトス
- 輸送ノ申込
- 各號ニ依ルモノトス

界 限 區 分	提 出 費 類
軍用(甲)	到着日時ノ確保又ハ(甲)但シ申込書(甲)ノ準備ナキ向ハ申込書(乙)ノ摘要欄ニ「列車指定」ト朱書き送付スルモノトス
軍用(乙)	發送日ノ指定スルモノトス
同 右 輸送申込書(乙)	

三、輸送計畫及通報方

- (イ) 那輸部處理ノモノ
便宜方法ニ依リ甲、乙ニ区分シ輸送實施計畫ノ關係各廳ニ通報スルモノトス
- (ロ) 運輸本部處理ノモノ
軍用(甲)ニ對シテハ「海軍鐵道輸送計畫表(甲)」ヲ、軍用(乙)ニ對シテハ「同表(乙)」ヲ作成シ計畫事項ヲ各關

係廳ニ通報スルモノトス

○ 雜 款

(イ) 事務所移轉
大阪海兵團(假稱)設立準備事務所ハ八月一日左ニ移轉セリ
大阪市住吉區杉本町(阪和線杉本町驛ヨリ約三分)

○ 事務開始

第百五十七號特設輸送艦艇裝員事務所ノ七月十八日尾道市外日立造船株式會社向島造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
第七號輸送艦艇裝員事務所ノ七月三十一日横濱市三菱造船株式會社横濱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
第四十六號海防艦艇裝員事務所ノ八月一日神戸川崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

一〇六八 1032

海軍公報 第四七六四號

昭和十九年八月九日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九二九號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年八月五日

海軍大臣

第十五潜水隊ノ項中「伊號第二十六、二十七」ノ下「伊號第二十九、三十」ヲ加フ

(内令提要卷二、七〇頁参照)

官房教機密第三六一號

昭和十九年八月五日

海軍大臣

船舶警戒要員ノ講習實施ニ關スル件申改正ノ件
訓令

官房人機密第一二七三號ニ依ル船舶警戒要員ノ講習實施ニ關スル件訓令中左ノ通改ム

七 教育要領ノ項中班別講習ノ毎回派遣教育員ノ欄ニ海軍對
潛學校トナルノ特設船舶警戒部ニ改ム

官房機密第二六號ノ三

昭和十九年八月五日

各鎮守府司令長官殿

海軍大臣

兵器簿ノ件通達

巡洋艦(八雲、磐手、出雲、大淀ノ除ク) 駆逐艦兵器簿水雷長
主管之部中左記ノ通改ム

記

指定	區	分	品	名	數	稱	數量	換	要
追加				發射指揮要具之部	測的具	一型	一個		一品名數量追加

官房人機密第一五八八號

横須賀鎮守府司令長官ハ左ノ各號ニ依リ通信術中隊又ハ乙種專
修操備練習生ヲ採用スベシ
昭和十九年八月七日

海軍大臣

採用範圍

(イ) 通信術中隊

現ニ無線電信講習所第一部及第二部高等科生徒並ニ卒業生
通信術乙種

現ニ無線電信講習所第一部普通科生徒並ニ卒業生

出願期日

海軍公報 第四七六四號

昭和十九年八月九日

一〇六九

昭和十九年八月十日但ニ練習課程ニ在リ者及卒業者ニシテ八月中旬ノ採用試験受驗不能ノモノハ九月二十日トス
 三 身體検査及口頭試問ノ期日及場所

- (一) 期日
 - 第一回 昭和十九年八月中旬
 - 第二回 昭和十九年十月上旬
- (二) 場所

無線電信講習所又ハ横須賀鎮守府司令長官ノ定ムル場所
 四 採用期日及採用員數

専修別	採用期日	採用員數
通信術甲種	八月下旬	約七〇〇名
通信術乙種	同	約三〇〇名
第一回受驗者	第二回受驗者	第二部 第二部

五 雜件
 現ニ第一部高等科及普通科ノ生徒ニシテ練習課程ニ在ルモノ、卒業者及十月上旬練習課程ニ入ルモノニ在リテハ横須賀海軍通信學校ニ歸シ現ニ第二部高等科ノ生徒ニシテ十月上旬練習課程ニ入ルモノニ在リテハ海軍練習航空隊ニ執レモ昭和十九年十月上旬入校(隊)セシムル豫定

官房經機密第一一八八號
 聯合艦隊司令長官又ハ海上護衛司令長官ハ其ノ司令部附シ兼務

(七七) 1034

セル陸上各部勤務ノ下計科士官ノ艦隊經費分任出納官吏トシテ主計官以上官以上ノ配員ヲキ部下艦隊等ノ支拂ニ屬スル經費ノ掌理セシムルコトヲ得
 前項ノ場合所屬長官ハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スルト共ニ當該艦船部隊等ノ所管鎮守府ニ屬スル海軍經理部長ニ通知スベシ
 昭和十九年八月七日
 海軍大臣

官房經第七五九號

昭和十八年官房經第四三七號中左ノ通改正ス
 昭和十九年八月七日
 海軍大臣

第一號中「又ハ給料(報酬金ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニシテ、給料(勤続加給ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ報酬金」ニ改ム
 第二號、第四號、第六號及第九號中「又ハ給料」ヲ「給料又ハ報酬金」ニ改ム
 第三號中「及給料」ヲ「給料及報酬金」ニ、「又ハ給料」ヲ「給料又ハ報酬金」ニ、「給料ノ三分ノ一額」ヲ「給料又ハ報酬金ノ三分ノ一額」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十九年七月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍會計法規集三卷八〇八ノ二三頁

官房教第六一號

昭和十八年九月採用ノ技術見習尉官出身ノ海軍技術中少尉中永
久服役ノモノノ第二期實務練習期間約一月短縮スルコトヲ得
昭和十九年八月八日

海軍大臣

○通 牒

官房備第一七七號

昭和十九年七月二十九日

關係各廳長殿

海軍省 副官

軍事郵便貯金ノ繼承者届出事務取扱ノ件通牒

戦地ニ在ル軍人及軍屬方戦歿其ノ他ノ事由ニ依リ軍事郵便貯金
通報ヲ亡失シ再度通報交付ノ手續ノ爲シ得ザル場合アルヲ以テ
之方承継上遺憾ナキノ期スル爲左ノ要領ニ依リ軍事郵便貯金ノ
留守宅届出^一ノ爲スコトニ定メラレ候條可然取計相成度
遺^二本制度ハ通報亡失十年後ニ於テ同庫所有トシルベキ際實
効ノ現スモノニ付右實施セラルト雖モ自己所有ノ貯金通報
記號番號ハ必ず留守宅へ通知シ置ク様併セテ勵行セシメラレ
度

(別紙)

軍事郵便貯金ノ繼承者届出事務取扱要領

一 新タニ軍事郵便貯金ヲ爲サントスル者ハ預入申込書ニ附表

ノ一ノ例ニ依リ其ノ留守宅ノ加記ス

海軍軍用郵便所ニ於テハ軍事郵便貯金通報ノ印鑑閣下部ニ
表^三ノ例ニ依リ「留守宅届出済」ト記載シタル上日附印ヲ加
捺ス

二 普通郵便貯金ヲ戦地ニ携行シタル者ハ海軍軍用郵便所ニ
シ附表三ノ例ニ依リ其ノ留守宅届書ヲ提出ス
海軍軍用郵便所ニ於テハ前號第二項ノ手續ノ爲シ届書ハ之ノ
所屬原簿所管廳ニ送付ス

三 前各號ニ依リ留守宅ヲ届出タル者之方變更ヲ要スルトキハ
前號ニ倣ヒ其ノ變更届書ヲ提出ス

四 現在戦地ニ在リテ軍事郵便貯金ヲ爲シタル者ハ第二號ノ例
ニ依リ其ノ留守宅届出書ヲ提出ス
(附表添)

軍務一機密第七(六)號
昭和十九年八月八日

海軍省軍務局長

各艦隊 參謀長 殿
各鎮守府 各警備府 參謀長 殿

艦船部隊裝備兵器ノ移裝ニ關スル件通知

兵裝計畫並ニ兵器準備等ノ爲必要ニ付作戦等ノ爲艦隊長官ニ於
テ艦船部隊裝備兵器(消耗兵器小型兵器ヲ除ク)ヲ他ノ艦船部
隊ニ裝備換ノ場合ハ事後速ニ其ノ旨兵器經理規程ニ從ヒ書類報
告(重要ナルモノハ電報報告)ノコトニ取計相成度

海軍省令 第四十六號

海軍省軍務局長
海軍省総理局長

各海上護衛隊司令官
各海上護衛隊副司令官
各艦隊司令官
各艦隊副司令官
各艦隊主任
各艦隊主任補佐
各艦隊主任補佐補

海防艦等ノ給與等管理ニ關スル件申進

今般所要ノ陸上各部ニ聯合艦隊司令部附、海上護衛總司令部附等職務ノ主計科士官ノ配員セラレタルトト相成候處有ハ海防艦、輸送艦、敷設艦等小型各艦艇ニ主計科士官ノ配員困難ナル爲之等ノモノノシテ主計科准士官以上ノ配員ナキ當該艦艇ノ給與、補給其ノ他ノ業務ノ管理セシメラルル内意ニ依ルモノニシテ官房経機密第一一八八號ハ此ノ趣旨ノ以テ發令セラレタルモノニ候條可然取計相成度

進メ之方給與事務ノ取扱ハ左記ニ依ル義下知相成度

- 一 當該艦艇ノ長ハ給與計算ノ資料タル艦内通達簿寫又ハ之ニ準ズルモノヲ給與管理者ニ送付スルモノトス
 - 二 給與管理者變更(變更ノ豫定又ハ見込)以テ出港スル場合(シ含ム)ニシタルトキハ舊分任出納官吏ハ海軍給與令施行細則第百六十九條ニ準ジ作成シタル給與通牒(宛名ヲ省略スルコトヲ得)ニ通ジ當該艦艇ノ長ニ交付スルモノトス
- 當該艦艇ノ長前項ノ給與通牒ヲ受理シタルトキハ一通ヲ保管

他ノ一通ノ舊分任出納官中ニ移牒シ當官ノ受ケルモノトス
海軍省令 第四十六號
昭和十九年八月八日

海軍省人事局長

各所轄 長殿

兵進級比率等ニ關スル件通牒

考課表及任用進級拔擢(候補)名簿取扱特例第十二條ノ規定ニ依ル首題ノ件左記ノ通定メラシ候

記

第一 進級比率

一 兵長ニ進級セシムベキ者

(イ) 經過日數一年以上ノ者

各科ヲ通ジ候補者ノ一〇(%)以內

(ロ) 經過日數六月ノ者

兵進級決定候補名簿調製期日ニ於テ

(一) 特修兵、特技兵、練習生、特技兵講習員及海軍大臣

ノ訓令ニ基ク講習(特型運貨船、魚雷艇、戰車、水中

工作及電信講習等)終了者タルモノ

各科ヲ通ジ候補者ノ一〇(%)以內

(二) 前號以外ノ者

(1) 現ニ艦隊又ハ海上護衛總司令部所

屬ノ艦船(特設艦船ヲ含ム)又ハ戰務

甲若ハ乙ノ加算ヲ附セラルル陸上部

隊、官衛等ニ勤務中ノ者（同艦船部隊官衛等ニ轉出入等ノ爲旅行中ノ者ノ含ム）

(2) 現職階ニ進級以後前號ニ該當スル艦船部隊官衛等ニ於ケル勤務日數三月以上ノ者

三月以上ノ勤務日數ヲ有セザルモ前號ノ艦船部隊官衛等ニ於ケル戰傷又ハ戰病ノ爲後送セラレタルモノニ付亦同ジ

(3) 現職階ニ進級以後潜水艦乗員トシテ三月以上ノ勤務日數ヲ有スル者

(4) 戰務丁ノ加算ノ附セラレヌハ戰務ノ加算無キ艦船部隊其他各部ニ勤務中ノ者ニシテ前各號ニ該當セザル者

一 上等兵ニ進級セシムベキ者ハ各科ヲ通ジ候補者ノ一〇％以内

備考

- 一 端員數ノ生ジタル時ハ所轄長ノ裁量ニ依ルモノトス
- 二 進級比率一〇％ノ者ニ在リテモ身體虛弱勤務ノ成績不良其ノ他ノ事由ニ依リ進級不適ト認ムル者ハ之ヲ除クモノトス
- 三 本標準ニ據リ難キ特別ノ事由アルトキハ在籍鎮守府司令長官ノ認許ヲ受クルモノトス

各科ヲ通ジ候補者ノ一〇％以内

第二 進級資格ノ有スルモ進級セシムベカラザル者

一 現職階中刑罰ニ處セラレタル者ニシテ左ノ日數ノ經過セザルモノ

刑罰	現職階ニ進級後次期進級ノ期滿了後		記
	經過日數	一次期進級ノ期滿了後	
上等兵及一等兵	二年	一年	一 公務上ノ過失ニ起因スル者又ハ戰功顯著者ハ勤務ノ成績功績著クハハ格狀ニ依リ經過日數ヲ減ジ又ハ之ヲ免ズルコトヲ得 二 二回以上刑罰ニ處セラレタル者ハ六月ヲ付
罰金、拘留	一年六月	六月	
懲役及禁錮	二年	一年	

二 刑罰ニ處セラレザルモ勤務素行等不良ナル者

軍需ニ第八四號

昭和十九年八月八日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

自動車用燃料トシテアルコール使用ニ關スル件通牒

軍需ニ第六七號ニ依リ自動車用燃料トシテアルコール使用ノコトニ通牒濟ノ處其後實用試驗ノ結果ニ號アルコール使用可能ノ成果ヲ得タルニ付自今自動車用燃料トシテハ已ムノ得ザル

1037

場合ノ外者請揮發油 代ノ...
一、伊丹ノ...
海軍機密第一五九七七號
昭和十五年八月七日

海軍運輸本部長

關係各局長殿

海軍運輸本部長

鐵道軍事輸送申込期日...
當部計畫ノ係人員及貨物ノ鐵道輸送...
申込ノ受クモ之漸次増加ノ傾向...
輸送力ノ逼迫ニ加ヘ軍事輸送極メテ幅裕セズ...
上困難カラザルノミナラズ要望通實施不可能ナル場合アル實情ニ付努メテ早期申込又ハ連絡ニ關シ特ニ當業者ニ徹底方取計相成度

○雜 款

○開隊

遠北海軍航空隊ハ七月二十三日第三二九航空基地ニ開隊セリ

○事務所移轉

大阪警備府構内第二海軍療品廠假事務所ハ七月二十五日左ニ移轉セリ
大阪市東區安土町四丁目八番地(安土町ビルディング)

(電話北濱(2)) (七三五三) (總務部)
(七三五三) (補給部)
(七三五四) (會計部)

旅行願者ノ...
生丁

(第二海軍療品廠)

第三百六號營隊ハ八月一日備前賀海軍施設部ヨリ茂原航空基地ニ移轉事務ノ開始セリ

○事務開始

第一特別基地隊司令部ハ七月二十二日事務ノ開始セリ

(電話栗嶺守府 二二七(九番))

父島海軍通信隊ハ八月一日小笠原諸島大村ニ於テ事務ノ開始セリ

○事務所撤去

伊號第三百六十六潜水艇艦裝具事務所ハ八月三日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

伊號第三百六十六潜水艇艦裝具事務所ハ七月二十二日ヨリ第八潜水艇隊司令部内ニ於テ之ヲ行フ

○正誤

八月三日秘海軍公報通牒欄戰死者遺留品無貨輸送ニ關スル件通牒中「運輸第一一五〇號」ハ「海軍機密第一二五〇號」ノ、
「陸軍關係一般」ハ「陸運關係一般」ノ誤

○本日軍機秘海軍公報第三號(乙配布)ヲ發行セリ

1038

(官房備第一七七號附表一)

(昭和十九年八月九日秘海軍公報)

貯金預入申込書
郵便貯金預入致度此段申込候也

印 附 日	鑑 印		通帳 記號 番號 三九八九〇
	名 氏	所 住	横須賀郵便局氣付 ウ五〇、ウ登五〇
留守宅 荏原區豊町五ノ九七 佐藤 春子	佐藤 達夫		

此書面ハ他日貯金ノ拂戻請求等ノ場合ニ照合ノ用ニ供スルモノ
デアリマス。スカラ明瞭ニ記載シ印鑑ハ鮮明ニ押捺シテ下サイ

1039

(官房備第一七七號附表二)

				受	入				
				高	拂				
				出	高				
				主	務				
				者	證				
				印					

此の欄には必ず預入申込書に使用した印章を鮮明に押捺して置いて下さい。尙通帳と印章は別に保管せられた方が安全であります。

留守宅届濟附

印

(昭和十九年八月九日 海軍公報)

1040

留守宅届書

欄	鑑	印	欄印調名記	所 住	出 届 日 年	帳通	
						帳通 番	帳通 記
留 守 宅	佐 藤 春 子	在 原 區 豐 町 五 ノ 九 七	佐 藤 春 子	横 須 賀 局 氣 付 ウ 五 〇 ウ 登 五 〇	昭 和 十 九 年 三 月 一 日	三	艦
						九	い
						八	ろ
						九	
						〇	
印 附 日 局 管 所 轄 原					印 附 日 局 付 受		

注 (一) 書類の内容に應じ 不要の文字は之を抹消せられたし。
 (二) 改印の場合は左上部相當欄に新印章を鮮明に押捺せられたし。
 但し印章大にして印鑑欄に押捺し能はざるときは別に印鑑紙を
 貼附せられたし。

意 (三) 轉居の場合は左下部相當欄に新住所を明瞭に記載せられたし。
 附第十五號

1041

海軍公報 第四七六五號

昭和十九年八月十日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九二二號ノ二

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

昭和十九年七月二十八日

第二百九號特務係

海軍大臣

内令第九二三號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年七月二十八日

海軍大臣

南東方面艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

千島方面
根據地隊

第二百九號(横)

(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)

内令第九二四號ノ二

昭和十八年内令第二二三號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二日

海軍大臣

第二海軍航空廠大阪補給工場 大阪市淀川區大和田町

第十一海軍航空廠築城補給工場 福岡縣築上郡築城

第十一海軍航空廠大阪補給工場 大阪市淀川區大和田町

(参照) 内令提要卷二、三〇ノ二四ノ二頁航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件

内令第九二六號ノ二

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年八月二日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中名古屋海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ第九〇二海軍航空隊ノ項ヲ削ル

松島海軍航空隊 宮城縣桃生郡

吳鎮守府ノ部中第三三一海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ宮崎海軍航空隊ノ項ヲ削ル

第三三一海軍航空隊

岩國航空基地(山口縣岩國市)

昭和十九年八月一日

佐世保航空隊ノ編成第一五八海軍航空隊ノ項ノ次ノ加

第三五二海軍航空隊ノ項ノ次ノ加

同部中第五五四海軍航空隊ノ項ノ次ノ加

第五五五海軍航空隊

（内令提要卷二、三ノ三九頁参照）

内令第九二六號ノ二

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和十九年八月一日

海軍大臣

宮崎海軍航空隊ノ一松島海軍航空隊ニ改ム

（内令提要卷二、三〇ノ四二ノ二頁参照）

内令第九二六號ノ四

昭和十八年内令第一五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

宮崎海軍航空隊ノ一松島海軍航空隊ニ改ム

（内令提要卷二、三〇ノ四三頁参照）

1243

内令第九三三號

昭和十九年内令第四三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月六日

海軍大臣

第二魚雷艇隊ノ項中一軍一ノ下二軍二ノ加

（内令提要卷三、四八ノ二七頁参照）

内令第九三三號

海防艦 大東

右本籍ノ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

海防艦 大東

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年八月七日

海軍大臣

内令第九三四號

昭和十八年内令第一二二三號中左ノ通改正シ八月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年八月八日

海軍大臣

第一海軍航空廠小泉補給工場 群馬縣葛葉郡大川村 ノ下ノ次

第一海軍航空廠松島補給工場 宮城縣桃生町天本町 一ノ加フ

(参照) 内令提要卷二、三、四ノ二四ノ一頁海軍兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件

内令第九三五號

艦船造修規則中左ノ通改正ス

昭和十九年八月八日

海軍大臣 臣

第八十五條第一號表中末尾ニ左ノ如ク加フ

騒音公試(試験)

第九十四條表中末尾ニ左ノ如ク加フ

騒音公試

海軍工廠長ノ指定スル
造兵部職員

海軍工廠長ノ指定スル
造兵部職員

第九十七條ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ

第十節ノ二 騒音公試

第九十七條ノ二 騒音公試ハ潜水艦ニ就キ潜航中發生スル騒音ヲ檢知スル爲メ左ノ場合ニ之ヲ施行スルモノトス

一 新造シタル場合

二 船體、機關、兵器等ニ大ナル改造又ハ修理ヲ施シ海軍大臣特ニ指示スル場合

第九十七條ノ三 騒音公試ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施行スルモノトス

一 潜航状態トシ原動力、微動力、最微動力、潜代、沈座ノ各場合ニ就キ測定スルシテ情況ニ依リ其ノ一部ノ省略スルコトヲ得

二 檢測事項

各種騒音音源ノ機械的振動、同音源ニ因ル室内騒音、艦内騒音方自艦聽音機ニ及ボス影響及潜水艦外ニ發スル水中騒音(可聽音波、超音波)ヲ測定ス

第九十五條表中第九號ノ次ニ左ノ如ク加フ

十 騒音公試 異狀ノ有無

内令兵第六一號

昭和十八年内令兵第四一號大東亞戰爭中飛行機外面塗粧等ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年八月八日

海軍大臣 臣

第二號中「全機體」ノ「全機體中上半面」ハ迷彩塗粧ヲ施シ下半面ハ「」ニ改ム

(内令提要卷三、二四二ノ八ノ二頁参照)

官房人機密第一五六八號

本年八月一日現在官海軍航空隊職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ松島海軍航空隊ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

海軍公報 第四七六五號

昭和十九年八月十日

二〇七七

昭和十九年八月十日

海軍大臣

官房人機密第一五九二號

防衛召集應召員ノ配員等取扱規則左ノ通定ム

昭和十九年八月九日

海軍大臣

防衛召集應召員配員等取扱規則

第一條 警備召集待命者警備召集ノ令セラレタルトキハ別ニ辭

令等ヲ用ヒズシテ召集セラレタル當該部隊ニ附トシテ一時配

員セラレタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ當該部隊ノ定員ヲ超過シタル人員ハ臨時増

置セラレタルモノトス

第二條 防衛召集擔任官ハ警備召集應召員ノ配置ヲ定メタルト

キハ連ニ之ヲ所屬長官ニ報告スルト共ニ士官又ハ豫備士官ニ

在リテハ海軍省人事局長ハ、特務士官以下ニ在リテハ在籍領

守府ノ海軍人事部長ニ通報スベシ

第三條 警備召集應召員ハ他ニ轉勤セシメザルヲ例トス但シ所

屬長官特ニ必要ト認ムルトキハ部下ノ部隊ノ間ニ一時轉勤セ

シムルコトヲ得

第四條 警備召集應召員ニシテ配員上特ニ必要ナルモノ又ハ召

集期間概ネ二週間以上ト爲ル見込ノモノハ充員召集ヲ實施ス

ルノ例トス

(一)七八

防衛召集擔任官前項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ順序ノ經
ハ士官及豫備士官ニ在リテハ海軍大臣ハ、特務士官以下ニ在
リテハ在籍領守府司令長官ニ之ヲ報告スベシ

第五條 特別召集待命者特別召集ノ令セラレタルトキハ別ニ辭

令等ノ用ヒズシテ特設船舶警戒部ニ附トシテ一時配員シ同部

ヨリ乗組ノ船舶ニ派遣セラレタルモノトス

特別召集中ノ人員ハ特設船舶警戒部ニ臨時増置セラレタルモ

ノトス

官房人機密第一五九三號

松島海軍航空隊職員中特務士官以下ハ所管ニ拘ラズ吳鎮守府在

籍者ヲ以テ之ヲ補充スベシ

昭和十九年八月九日

海軍大臣

官房備第七三號ノ七

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月九日

海軍大臣

表中第十六海軍軍用郵便所ノ項所屬ノ欄「中部太平洋方面艦隊」
シ「第四艦隊」ニ改メ職員ノ欄中所員ヲ左ノ如ク改メ第十二海
軍軍用郵便所ノ項及備考中第五號ヲ削ル

1045

名	種	職	員
第五海軍軍用郵便所	所	專任	十九人
第七海軍軍用郵便所	所	專任	十三人
第十海軍軍用郵便所	所	專任	十三人
第二十五海軍軍用郵便所	所	專任	七十一人
第二十六海軍軍用郵便所	所	專任	十九人
第二十七海軍軍用郵便所	所	專任	十四人
第四十三海軍軍用郵便所	所	專任	十五人
		判任	十九人

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

官房第八〇七號

昭和十七年官房第四一二二號及昭和十八年官房第一一九六號ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年八月九日

海軍大臣

(参照) 陸海軍令二、七二ノ一〇頁

○ 通 達

海軍省公報 第七六五號 昭和十九年八月十日

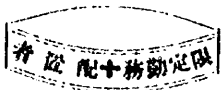
軍務一機密第七〇八號
昭和十九年八月九日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長殿

限定勤務配置者標識ニ關スル件申進

本年官房人機密第七三四號ニ依ル限定勤務配置者ニハ自今其ノ勤務廳内ニ於テ當時別圖標識ヲ左腕(狀況ニ依リ右腕)ニ佩用セシムルコトニ定メラレ候條可然取計相成度
道テ本標識ハ各廳毎ニ準備ノコトニ了知相成度
別圖



地質 布製
十字 青色

幅 三糎ノ白色布ノ上下ニ一糎ノ青色布ヲ附ス

一五製機密第四號ノ一

昭和十九年七月一日

海軍省兵備局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

機密期ノ發註網標實機密令ニ關スル件ニ應

昭和十九年六月二十三日決案官房機密備第三五九號海軍機密令

一〇七九

1086

業施策要綱ニ基ク發計調製實施要領別紙ノ通
項ヲ本要領ハ海軍航空本部ニ適用セズ爲念
(別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス)

海軍機密第一八號ノ三
昭和十九年八月五日

海軍省人事局長

各鎮守府、各警備府參謀長
各艦隊參謀長
各海軍人 事 部 長 殿

防衛召集待命者ノ人選等ニ關スル件申進

防衛召集待命者ノ人選並ニ海軍退役武官、兵役免除者等服役特
例ニ依リ豫備役ニ服セシメラレタル者ニ對シ防衛召集ノ行フ場
合ノ取扱ニ關シテハ左記ニ依リ處理ノコトニ定メラレ候

記

一 警備召集待命者ノ人選

- (イ) 急速充員ヲ要スル關係上成ルベク防衛部隊所在地附近ニ
居住又ハ勤務スル既教育者ヲ以テ之ニ充ツ但シ狀況ニ依リ
一部未教育者ヲ充當シ差支ナシ
- (ロ) 戰時召集猶豫者ノ充當差支ナシ但シ海陸軍ノ軍屬トシテ
現ニ從軍中ノ者若ハ召集ニ依リ官廳、會社、工場事業場等
ノ運営ニ重大ナル支障ヲ來ス方如キ特殊配置ニ在ル者又ハ
市町村長、助役、收入役其ノ他之ニ準ズベキ職ニ在ル者
ハ努メテ充用ヲ避ク

特別召集待命者ノ人選

- (イ) 海軍防衛召集規則第三條第三項ノ規定ニ該當スル者ハ陸
軍軍屬トシ、現ニ從軍中ノ者ノ餘キ全員充用スル方爲要ス
レバ退役ノ船長等ニ對シテハ海軍武官、兵役免除者等服役
特例ニ依リ服役志願ノ繼續スル等適當ナル措置ヲ講ス
- (ロ) 船長又ハ之ニ準ズル者應召中ニ事故アル場合ノ願慮シ之
ニ代リ其ノ職務ヲ繼承シ得ル候補者ノ各船長ニ付若干名選
定シ防衛召集待命者ト爲シ置ク
- 三 海軍退役武官、兵役免除者等服役特例ニ依リ豫備役ニ服ス
ル旨ヲ志願シタル者ニ對シ防衛召集ノ行フ場合ノ取扱
- (イ) 海軍省人事局長又ハ海軍人事部長海軍退役武官、兵役免
除者等服役特例取扱規則第三條ノ規定ニ該當シ召集適當ト
認ムル者アルトキハ別紙様式ニ依リ名簿ヲ調製シ其ノ二通
ヲ關係防衛召集擔任官ニ送付ス
- (ロ) 防衛召集擔任官前號ノ名簿ノ受ケタルトキハ之ノ防衛召
集取扱者ニ通知シ海軍在郷軍人ニ準ジ處理セシム
- (ハ) 本取扱ニ依ル者ニ對シテハ防衛召集待命令狀ヲ交付スル
コトヲ得但シ之ノ豫備役ニ服セシムル期間ハ召集中ノ期間
トシテ取扱フモノトス

(別紙添)

教育機密第二七七號

昭和十九年八月七日

海軍省教育局長

1047

各鎮守府參謀長殿

信號術特技兵教育場所ニ關スル件申進

海人三機密第一號ノ一二五ニ依ル首題ノ件本年九月中旬以降左ノ通定メラレ候

鎮守府別	教育實施場所
横須賀	濱名海兵團
吳	安浦海兵團(假稱)
佐世保	相浦海兵團
舞鶴	舞鶴海兵團

艦本機密第一號ノ一三一九五

昭和十九年八月四日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、佐世保 海軍工廠總務部長
舞鶴、豊田、川 海軍工廠總務部長
各海軍工廠 需部部長
各海軍工廠 需部部長

二十五機統火藥種目一五三P、一五四P處
理ノ件照會

首題火藥二五-K種目一五三P、一五四Pハ安定度成續ニ付調
査ノ要アルニ付彈藥包ニ裝填未済ノモノハ第二海軍火藥廠ニ返
送シ彈藥包ニ完成セルモノハ昭和二十年五月迄ニ使用ノコトニ
取計相成度

海軍公報 第四七六五號

昭和十九年八月十日

艦本機密第五號ノ一三〇六九

昭和十九年八月九日

海軍艦政本部總務部長

各海軍工廠總務部長
各海軍工廠需部部長
內閣各海軍監督長、首席監督官 殿

機關構成材料(造機關係)材料試驗片採取符
號×印ニ關スル件通知

首題ノ件從來材料試驗片採取符號×印ヲ指定ノ場合使用材料ハ
昭和十七年二月二十日艦本機密第一一號ノ六三八內國註文工事
監督檢査施行標準ニ依ル鑄印又ハ昭和九年十月三十一日艦本機
密第一一〇一三號社內檢査ニ關スル件申進ニ依ル鑄印ノ刻印
(共ニ海軍監督官ノ檢印)アル材料ニ限ラレ右以外ノ材料使用
ノ場合ハ使用前右同ニ要領ニ依ル材料試驗ヲ行フコトニ定メ
ラレアル處自今前記刻印ナキ材料ト雖モ左記確實ナル材料ハ官
ノ認メタル試驗濟材料トシテ使用差支ナキコトニ定メラレ候

海軍ニ於テ社內檢査ヲ認許セル材料製造所ニテ製造シ且材料試
驗ニ合格セル成績表添付ノ(或ハ之ヲ證スル刻印アル)經歷確
實ナル材料但シ其ノ材料試驗要領ガ海軍規定ノ要領ト相異スル
場合ハ其ノ材料方適用セントスル海軍規定ノ材料ト同等又ハ同
等以上ト認メラルル場合ニ限リ使用差支ナキモノトス

○ 備 註

一〇八一

○集會所設置

横須賀水交社沼津集會所ノ七月二十八日沼津海軍工廠第一會議所内ニ設置セリ

（横須賀水交社）

○電話開通

當隊七月二十八日鎮守府（佐鎮交換 諜草分）直通電話開通セリ

佐鎮交換 五三〇番

（大村海軍航空隊諜草分遺隊）

○殘務整理

當隊七月十日附解隊殘務整理ハ明治航空基地内ニ於テ之ヲ行フ

（第三四五海軍航空隊）

當隊七月十日附解隊殘務整理ハ第三二九航空基地ニ於テ之ヲ行フ

（第七五三海軍航空隊）

○事務所撤去

第三百二十五設營隊事務所ハ八月一日之ヲ撤去セリ

○旅行順路

賀茂海軍病院ノ所在地及旅行順路左ノ通

一 所在地 廣島縣賀茂郡乃美尾村

二 旅行順路

(イ) 吳線方面 吳線廣驛下車

廣驛乃美尾間省營バス十五軒

(ロ) 其ノ他ノ方面 山陽本線西條驛下車

西條驛乃美尾間省營バス十四軒

（賀茂海軍病院）

○正誤

八月九日秘海軍公報一〇七二頁上段經機機密第三號ノ五七ノ宛名中「各海上護衛參謀長」ハ「海上護衛參謀長」ノ誤

○本日軍極秘海軍公報第四號（乙配付）ヲ發行セリ

(海人機密第一八號ノ三別紙様式(用紙適宜))

件名番號

月 日 送付

(昭和十九年八月十日秘海軍公報)

昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル服役志願者名簿

参考事項	就業場所	職業名	現住地	本籍地	現官(職)階		健康状態	氏名	生年月日	電報符號	又ハ入籍ハ
					特任	又ハハ					

調製廳名

1050